

阪神・淡路大震災のときの国籍を超えた助け合いなど「多文化共生」を紹介する展示室が、神戸市中央区山本

神戸

通3、「海外移住と文化の交流センター」内の移住ミュージアムに完成した。(大月美佳)

大震災の経験踏まえ新展示室

テーマは多文化共生



海外移住と文化の交流センター

外国人向けFM放送など紹介

同センターは、フランスなどへの移民を送り出してきた「旧神戸移住センター」を改装し、昨年6月にオープンした。今回の展示は、在住外国人が多い神戸の特色を踏まえて企画した。

大震災当時、同市長田区のカトリックたかとり教会を拠点に、ボランティアが、言葉の壁のある外国人を対象に支援活動を展開した。また、同市中央区の神戸朝鮮初中級学校は、それまで交流のなかった近隣の日本人が避難してきた際、温かい食事を振る舞った。

ミュージアムの順路の最後に位置する展示室(約30平方メートル)では、こうした動きを紹介。外国人に情報提供するため、

多言語放送を始めた「ミニユニティ放送局「FMわいわい」で、震災直後に使われたミキサーやマイクも展示している。

同時に、外国人の子どものための教育問題や、就職での差別など、残された課題も解説する。

監修した竹沢泰子・京都大人文科学研究所教授は「大震災をきっかけに『多文化共生』という言葉が定着した。経験を記録に残すことは意義深い」と話す。海外移住と文化の交流センター ☎ 78・272・2362

「FMわいわい」で使われた機材を前に、「多文化共生」をテーマにした展示の意義を語る竹沢泰子教授。神戸市中央区山本通3